

3. 計算結果とまとめ

図 3-1 は工学的基盤の深度を示したものである。甲府盆地の北部から南部に向かい工学的基盤面が深くなっていくことがわかる。

図 3-2 に中央防災会議から公開されている震度分布を示す。図 3-3に本調査で計算した地表加速度波形から算出した計測震度分布を示す。山梨県南部で震度 6 強を超える地域があることについては、中央防災会議から公開されている震度分布と同様の傾向を示す。この点については東海地震震源域に近いことを反映したものであると考えられる。盆地部でも一部に震度 6 強を超えるメッシュが見られるが、この点については甲府盆地の北部から南部に向かい深くなっていく工学的基盤深度分布（図 3-1）と非調和であることから、表層部の地盤モデルを反映したものと考えられる。

なお、本調査結果の震度分布と中央防災会議の震度分布を見比べると、県北部における震度 6 弱の分布は中央防災会議の方が大きい（北杜市等に震度 6 弱がある）。本調査結果では震度 6 強が甲府市内で分布するなどの傾向が見られる。本調査においては、中央防災会議で公開されている工学的基盤における地震波を入力波として、浅部地盤モデルを用いて地表での地震動を応答計算により求めているが、ここで、工学的基盤の位置は本調査で改めて設定しており中央防災会議とは異なること、浅部地盤モデルにおいても、中央防災会議ではボーリングを用いておらず微地形等を考慮して設定しているのに対して、本調査ではボーリングデータをもとに設定していること、に起因して、中央防災会議とは異なる結果となっていると考えられる。

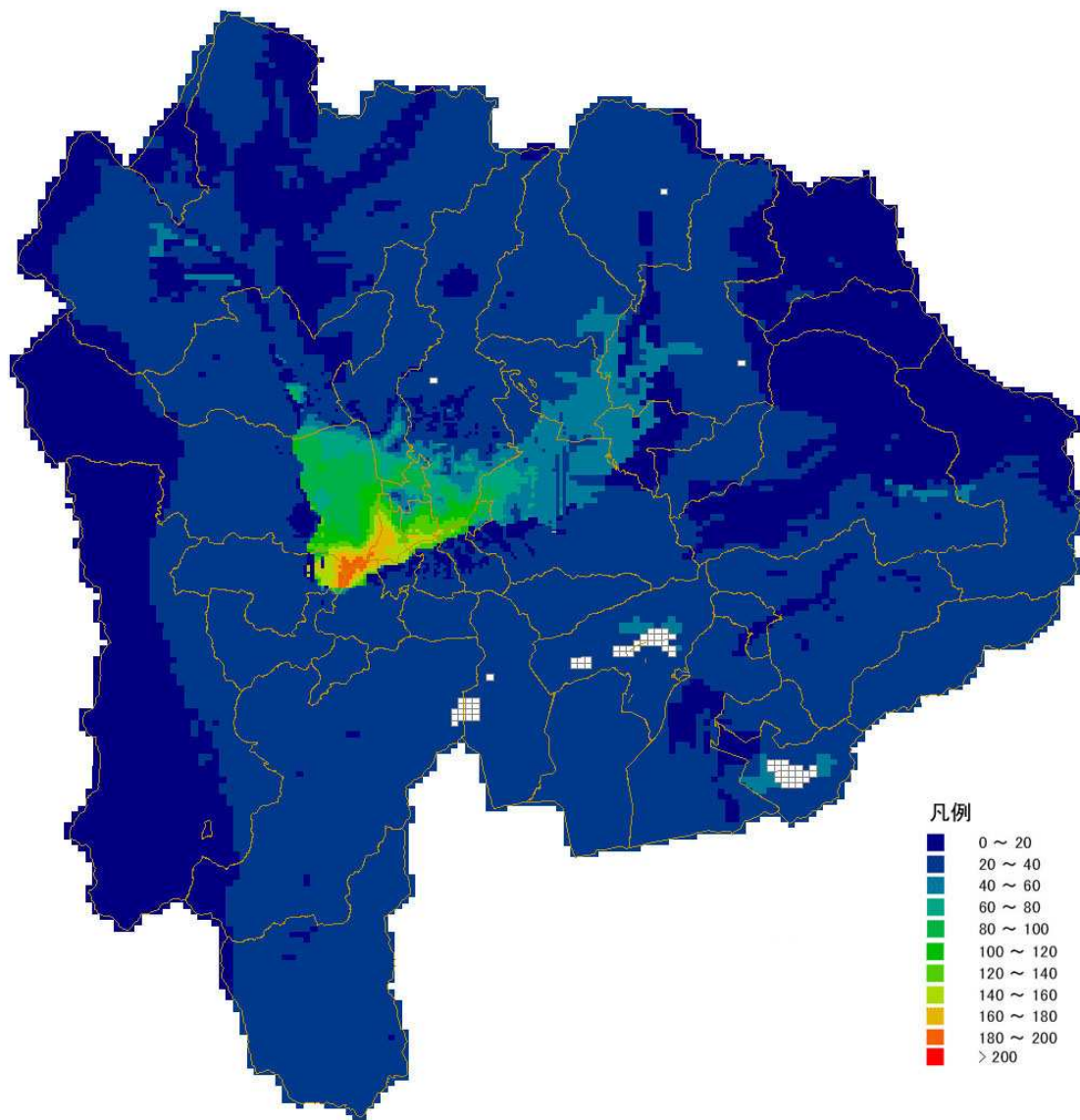


図 3-1 本調査で設定した工学的基盤深度分布図（単位：m）

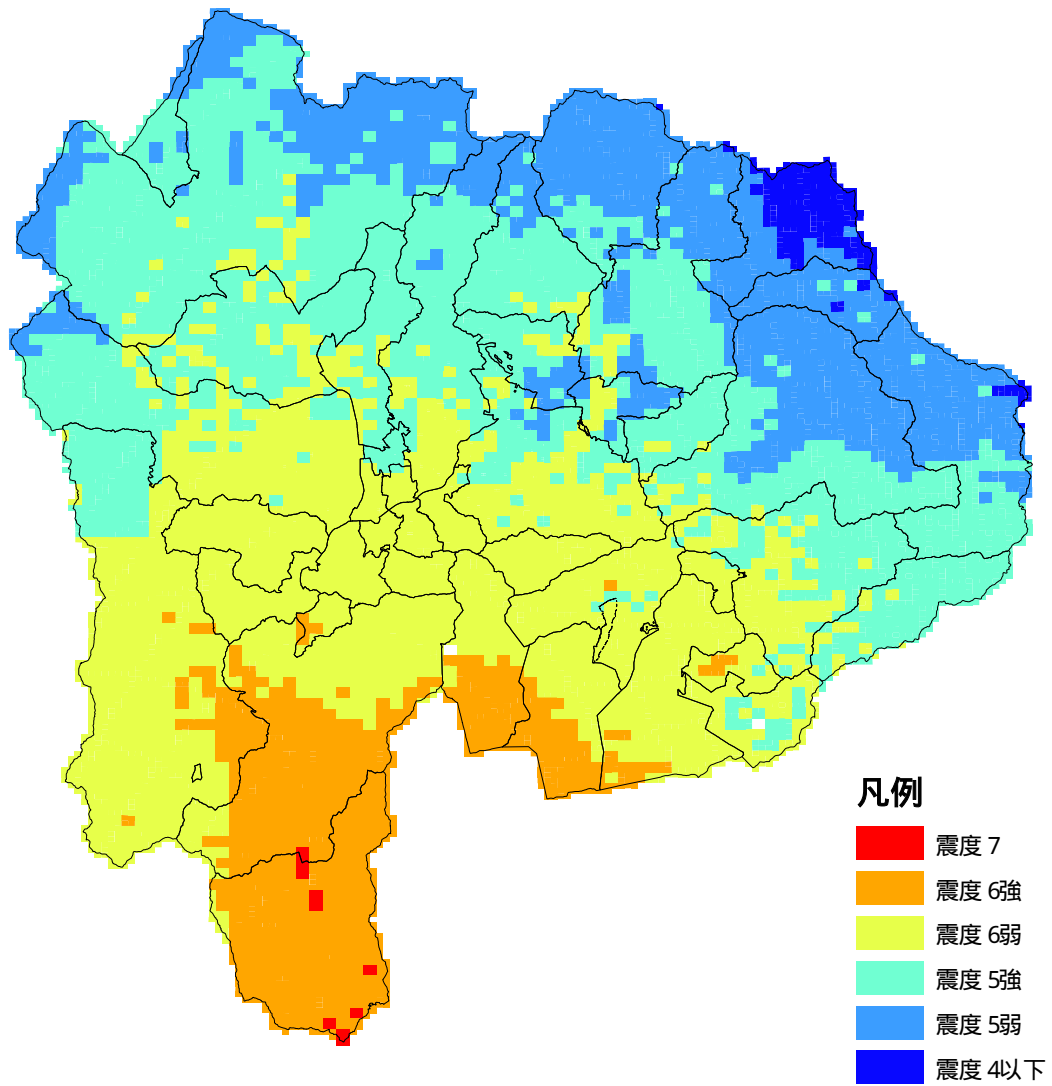


図 3-2 中央防災会議による震度分布図 (D1モデル)

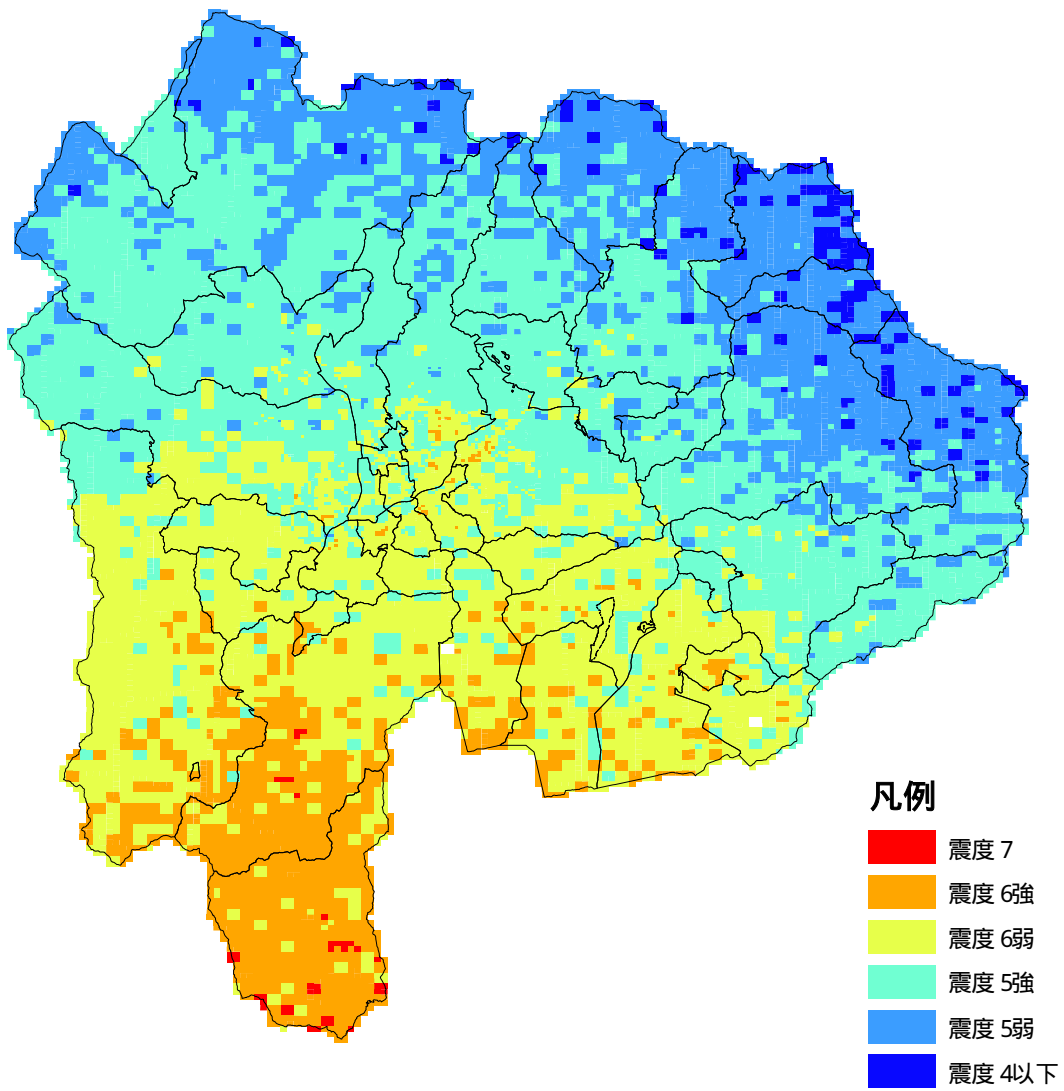


図 3-3 本調査結果による震度分布図